

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立笹原中学校

学校教育目標		自ら勉学に励み、自ら心身を鍛え、自ら進路を切り開く創造的な生徒の育成						
重点目標		(1)受容と共感に基づいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、確かな学力を育む (2)全教育課程を通して高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、ともに支え合う仲間づくりを行う						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
安全・安心な学校（総務部）	教育課程	・学校教育目標の実現に向け、全教員が学校運営に参画する。 ・学校の現状や生徒の実態を踏まえた教育課程を編成する。	・学校行事を充実させるため、事前学習や事後学習の時間を確保する。 ・「笹トレ」や7校時学習の実施により授業時数を確保するとともに、地域と連携した放課後補習や土曜学習等の実施により学力を保障する。	アンケート結果の「A」「B」評価の割合の合計が80%以上になる。	B	・明確な校長の方針のもと、教職員の共通理解を図り、学校教育目標の実現に取り組んだ。その結果、学校や学校行事が楽しいとする生徒アンケートの「A」「B」評価が82%、保護者アンケートの「A」「B」評価が88.5%とどちらも前年度より値が向上し、目標を達成することができた。学校は落ち着いているが、このことに油断せず学校生活、学校行事等で生徒が達成感を持つような工夫をさらに進めていくとともに、さらに向上を目指して、生徒の自主性や主体性を伸ばす取り組みを進めていく。	・「笹トレ」については、問題の改良等を工夫を重ね今後も継続して行っていく。学年を越えて教え合い、学び合うことで学びを確実なものにするともに、自尊感情を育てていく。 ・学校行事については、先を見通した計画を立て、1つの行事で完結させるのではなく、次の行事や翌年へつなげる取り組みを行う。	・教育課程では、「笹トレ」を軸にした教育活動によって生徒たちの意識がプラスの方向にかなり改善されてきたようです。今後も「笹トレ」の意義を充分意識づけをして進めてください。
	危機管理の徹底	・自転車交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ・災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ・年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ・防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ・インターネットの安全な利用法や情報モラルについては、生徒の実態を踏まえ、関係機関との協力のもと、適切な内容の講習会を実施する。 ・実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・年2回避難訓練を実施する。 ・講話や講習などを年3回以上実施する。	B	・自転車交通安全教室や防災訓練、防災講話などの防災学習を通して、安全に生活しようとする意識が高まった。その結果、アンケート結果も「A」「B」評価の合計は、生徒が90.5%、86.0%とどちらも高い評価を得ることができた。 ・スマホ講演会を行い、インターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を実施し、実生活につなげて理解を促すことができた。 ・3年生において心肺蘇生やAEDの使用法の講習会を実施した。 ・今年度、大きな災害が重なったなかで、教職員に対して、非常時の対応や避難所となった際の対応について十分な共通理解がなされていなかった。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて継続して行い、自転車に関する知識を身につけさせる。 ・防災意識の高揚を図るために、防災訓練や防災学習の内容の充実を図る。また、防災学習については、中学校の授業の中で活用できる教材を整備していく。 ・防災や安全に関する情報を収集し、実生活とのつながりを意識させた学習を企画する。 ・防災マニュアルの徹底を教職員全体に通して行う。 ・生徒の実態を踏まえ、スマホの使い方やインターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を関係機関との協力のもと実施する。	校長の経営方針・教育方針を教職員に十分理解させることは必要であり、そのための話し合いが大切です。 ・危機管理では、生徒へ平日頃からのちょっとした防災教育が進められているようです。今後も継続した教育を望みます。また、地域と連携した防災訓練も今後必要になります。
学力の向上（教育・研究部）	評価・情報システム	・様々な方法で評価資料を収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価を適切に行う。 ・デジタル機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように教材を工夫し、わかりやすい授業に努める。	・生徒、保護者が納得できるような基準を設定し、シラバスで示す。また、評価資料を収集し、生徒の意欲を高める評価に努める。 ・ICTの活用を推進し、その状況が保護者に伝わるよう、授業参観等でアピールしていく。 ・さらなるICT化の推進を目指し、タブレット型端末の活用等を進めていく。	アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。	B	・評価資料の収集では、アンケートの結果より、教師は89.3%と昨年度より6.7%値が下がっているが、概ね評価資料の収集をしっかり行うことができたと考えられる。その成果もあり、生徒、保護者共に87.4%、83.4%と高い評価を得ることができている。 ・デジタル機器の使用法などを研修で学び、授業に積極的に取り入れることで、高い評価を得ることができている。生徒、保護者共に昨年度はアンケート結果の数値が下がってしまったが、今年度は95.9%、86.1%と共に6.4%、7%と大幅に向上した。	・生徒、保護者向けに評価基準をしっかりと提示し、評価方法や評価資料の徹底をはかり、さらなる向上を目指す。 ・デジタル機器の活用は継続させながらも、効果的な活用方法の検討を行う。 ・教師のデジタル機器の活用率は高くなってきたので、生徒がデジタル機器を活用できるような取り組みを検討する。	・評価・情報システムでは、非常に多くの教員が授業においてデジタル機器を活用しながら進行されているため、生徒の理解向上が進んでいるようです。 ・指導方法の工夫改善では、すべての教員が意識的に改善していこうという意識が見られ生徒に対して好影響を与えているようです。生徒もわかりやすい授業を実感しています。「笹トレ」の効果が出ていると思います。授業での積極的な発言ができる学習場面は今後の課題と言えます。 ・家庭学習の充実では、生徒全体的に浸透してきている様子が見られます。 ・特別支援教育の推進では、中学校全体の教職員が常に目を向けて指導に当たることが重要となります。今後の努力に期待します。
	指導方法の工夫改善	生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりを努める。チーム学習・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学びの共同体づくりに努める。	・「めあて」の内容を深めるために研修を行う。 ・振り返りは学習した内容の定着を図るため、必ず行う。そのために、授業の終わりに振り返りの時間を確実に取り、生徒に1時間の授業を振り返ったという実感を持たせる。 ・継続してICT機器の活用、実物の提示などを行い、教育効果が高まる教材や使用方法をしっかりと見極め、効果的な活用方法についての研修を行う。 ・グループ学習に目的・目標をもち、チーム学習にする。チーム内での発言を増やせるように発言のしやすい学級作りを行う。 ・話し合い活動や発表の仕方の基本ルールを決めて、学校で統一したやり方を研修する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・全国学力・学習状況調査で全国平均を2ポイント以上上回る。	B	・「めあて」を書くことはできているが、内容の精選ができていない部分がある。授業者が、その1時間にどんな力をつけたいのかを考え、改善していく必要性がある。 ・「ふりかえり」は、サクセスシートを1、2年生で実施することにより、評価が上がった。教員も授業内でのふりかえりを意識することができた。サクセスシートの活用については、現在教科で検討をしている。次年度に向け、さらなる検討が必要である。 ・話し合いについては、研修を重ねることで必要に応じて個人での思考、グループでの話し合いと様々な手段を選ぶことができるようになった。 ・笹トレは組織的に行うことができた。笹トレティーチャーがリーダーとしての自覚と責任を持ち、キャリアに視点を置き、学校全体で取り組むことができた。3年生が笹トレの効果を実感していないところがあるので、取り組ませる内容について考える必要性がある。	話し合い学習の班隊形(T字)を全教科共通で行うことを徹底し、子ども達が話しやすい環境づくりを行う。 ・サクセスシートを全学年実施する。 ・置き勉の実施に伴い、家庭学習の強化のためにサクセスシートを徹底する。授業ノートを聞いたふりかえりを実施することで、家庭学習の意識を高めていく。 ・校内研修の精選をし、ポイントを絞り教員の指導力向上に務める。 ・教職員が校外で研修を受けた場合、受けた職員が校内研修で学んだ内容を伝達する。	・指導方法の工夫改善では、すべての教員が意識的に改善していこうという意識が見られ生徒に対して好影響を与えているようです。生徒もわかりやすい授業を実感しています。「笹トレ」の効果が出ていると思います。授業での積極的な発言ができる学習場面は今後の課題と言えます。 ・家庭学習の充実では、生徒全体的に浸透してきている様子が見られます。 ・特別支援教育の推進では、中学校全体の教職員が常に目を向けて指導に当たることが重要となります。今後の努力に期待します。
	家庭学習の充実	・各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 ・授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。	・家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。 ・生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が75%以上になる。	B	・生徒、保護者ともに家庭学習に関するアンケート結果は肯定的評価が80%を超えるなど、おおむね好評評価である。 ・各教科で週末課題や週間課題を設定したり、工夫されたノートを掲示したりするなどの取り組みが好評評価につながっていると考えられる。 ・教員のアンケート結果では、出された課題を家庭で取り組ませるよう努めている、という項目は肯定的評価が72%にとどまっている。 ・家庭学習の習慣化について各家庭ごとに差が大きい実態と、宿題を家庭ではなく学校で取り組んでいる生徒たちが多いという実態がうかがえる。	・好評価につながっている取り組みを今後も継続しておこなっていく。 ・家庭学習の習慣が身につけていない生徒を中心に、保護者と緊密に連絡を取り、生徒の自主学習力の向上を図る。 ・学級担任と教科担任がこまめに連絡を取り合い、課題未提出者の把握につとめ、課題の期限内提出の徹底を図る。 ・各教科で課題を出す際に提出締切を明らかにするとともに、課題の内容と締切を学級の連絡ボードにも明記することを徹底する。生徒が課題を提出日締切当日に学校で慌てて取り組んでいる様子があれば声かけをし、事前に取り組ませるよう促す。	・読書活動の充実では、朝の読書タイムの充実を図ることが重要であり、帰りの学級会などで教員や生徒からの読書に関わるちょっとしたヒントも出す必要があります。また、各教科や総合の調べ学習など、授業の中で図書室を活用することも必要です。あわせて、読書の意義・価値を話していくことも必要です。
	特別支援教育の推進	・特別支援学級だけでなく、通常学級の生徒に対しても個別の指導計画を作成し、適切なサポート体制を強化する。 ・特別支援教育推進委員会や学年会議などで生徒の情報を共有するとともに日常的に支援員の方と連携をはかる。	・個別の指導計画の内容を全職員で共通理解し、日々の指導に生かせるように各学年に1部ファイルを作成する。 ・特別支援教育推進委員会であがった情報を学年の担当が学年会議などで学年職員に確実に伝えるようにする。 ・個々のケースにおいてうまくいった支援についての事例を集め共通理解する。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上を維持する。	B	・教員のアンケート結果では、特別支援教育推進委員会を中心に組織的な対応に努めているという項目が72%と昨年度より12%減少した。また、個別の指導計画に基づき指導方法を工夫し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導に努めているという項目においても68%と昨年度より16%減少する結果となった。 ・各学年で話し合い、個別の指導計画を立ててはいるが、常に特性を念頭に置いて配慮できているわけではない。また、個別の指導計画を立てていない生徒で支援が必要とされる生徒が徐々に増えつつある。 ・特別支援教育推進委員会での内容を各学年や他学年の教師と情報共有して取り組む意識が低くなっている。	・毎月の学年会で、支援の必要な生徒の情報と配慮を把握して、常に変化する生徒の現状に合わせて対応できるようにする。 ・学年の教師だけでなく、他学年の教師にも情報や配慮がわかるように個別の指導計画がない生徒を一覧表でまとめ、各学年のロッカーにファイルを置く。 ・気になったことが記入できるフォルダを作成し、その都度気づいた教師が打ち込みを行う。事例や上手い支援方法などを書きためていき、全教師が全学年の支援の要する生徒の情報をいつでも見られるようにする。	・読書活動の充実では、朝の読書タイムの充実を図ることが重要であり、帰りの学級会などで教員や生徒からの読書に関わるちょっとしたヒントも出す必要があります。また、各教科や総合の調べ学習など、授業の中で図書室を活用することも必要です。あわせて、読書の意義・価値を話していくことも必要です。
読書活動の充実	・利用しやすい図書館づくりを行い、授業で活用することで学力向上を図る。 ・朝読書を活活化させ、活字を読み解く力の育成を図る。	・図書館だよりで生徒や保護者、図書ボランティアなどによる図書紹介コーナーを引き続き設け、より親しみやすい図書館づくりに役立てる。 ・最新の統計などの新しい資料を整備し、調べ学習に役立てる。	アンケート結果において「A」「B」評価の割合が75%以上を達成したい。	B	・保護者、職員のアンケート結果において「A」「B」評価の割合が85%を達成した。 ・図書委員の読み聞かせなどのイベントを充実させた図書まつりを年1回開催したことで、図書館と読書活動のよいアピール活動になった。 ・図書館の利用マナーが悪かった。 ・アンケート結果が教員が92.8%、保護者は88.3%と高いのに対して、生徒のアンケートの評価が78.6%であり、図書館への認識に差があることがわかる。	・図書委員と国語科を中心に図書館利用のマナーについて注意喚起を行う。 ・国語以外の教科にも授業で利用してもらうように呼びかける。		

豊かな心・健やかな体（生徒指導部）	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「笹ナビ」に基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。 いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートにおいて、いじめやトラブルへの対応については83.2%（平成29年度は81.1%）と上がっており、高い評価を得ている。保護者のアンケートでは同じ項目において、78.5%（平成29年度は79.7%）となっており、やや下がってはいるが、迅速かつ丁寧に対応してきたことが成果に繋がっていると考えられる。一方で社会のルールやマナーについての指導をされているという項目に関しては、85.8%（平成29年度は89.5%）と下がっており、細かな風紀面においての指導などができていない部分があると見られる。 不登校生徒数を10人以下にする。 全学級がQ-Uにおける学級満足度50%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の「見える化」を図らなければならない。様々な場面での学校生活のルールや決まりを作成し、教員全員が周知徹底をして、どの教員が対応しても一貫とした指導が行えるようなシステムを構築する。 学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。 また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。 生徒会の活性化を図り、生徒の自主性を高める行事や授業づくりを個々の教員が意識する。 クラスの生徒の状況を的確に把握し、支援の必要な生徒には個別に対応するとともに、ルールとリレーションのバランスの取れた居心地のよい、まとまりのあるクラスづくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の充実では、「成果と課題」にもあるように「迅速かつ丁寧に対応」が行われており、問題の拡大を未然に防ぐことができている。生徒の学校や教育に対する評価が高いのは、学校が過ごしやすく安全である場所となっていると思います。 進路指導の充実では、真の意味での「キャリア教育」が意識化されている。
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の将来を親身に考え、ひとりひとりに合った進路実現に向けた指導を行う。 正しい情報提供を図り、家庭との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアノートを活用し、自分の特性を見つめ、適切な進路を設計する力を養う。 トライやる・ウィークの取り組みを活用し、いろいろな職業があることを気づかせ、社会の一員になる意識付けを行う。 教育相談や三者懇談の時間などを生かして、生徒だけでなく保護者との対話時間も確保する。 1年生2年生は毎学期、定期的に進路学習を行い将来への見通しと進路に向けての意識付けを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の項目については、生徒のアンケートでは90.5%（前年度84%）、職員アンケートでも96.4%（91%）と高い評価を得ることができた。また、懸案であった保護者アンケートでも81.2%と前年の78%を上回ることができた。このことから、学校の取り組みが生徒や保護者の理解を得ることができたと考えられる。しかしながら、学年が下がるほど進路に対するイメージがつかみにくく意識が低くなる傾向がある感否めない。そのため、三者懇談会や教育相談などの機会を生かして、個に応じた進路についての対話時間を増やしていく必要がある。また、キャリア教育が進路指導に繋がっていることを生徒だけでなく保護者にも伝える努力を今後も行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での進路情報を家庭まで確実に届ける。そのためにプリントに保護者サイン欄をつくるなどの工夫を今後も継続していく。 学校における様々な活動をキャリア教育の視点で見直し、計画的に推進するとともに、保護者にも学年通信などを利用し、引き続き、積極的に情報を発信する意識を持って伝えていく。 	
	健康な体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康の保持増進のため、体力の向上を図る。 食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことを目指し、保体委員会をさらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。 病気や怪我の予防、食育など、健康増進に関する情報を掲示板や保健だよりなどで、引き続き広報する。 生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進を目指した取り組みを推進する。 給食について、衛生面の指導、アレルギー対応を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果では、全ての項目で前年度より高評価であり、85%を超えた。 保健や家庭科の授業を通して、病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示板や保健だよりを通して、定期的に健康に関する情報を発信した。今後も生徒や保護者の理解を求め、生活改善に向けた取り組みを継続的に進める。 保体委員会では、季節や学校行事などに合わせて心身の健康の保持増進を図る取り組みについて協議して実践した。 安心安全な給食実施に向けて、個人のアレルギーマニエスマニュアルを作成し、家庭と学校が連携しながら、毎月のアレルギー対応を確認した。衛生面での指導の徹底や備品の充実について、今後も継続して進める。 残食はほとんどなく給食を食べることができ、毎日の献立を掲示することで給食に対する意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体づくりでは、給食完食が続けられているようで、継続を期待したい。 	
開かれ信頼される学校（管理部・渉外部）	開かれた信頼される学校づくり（地域との連携）	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解のもと、学校の教育方針や教育活動の周知徹底を図り、保護者や生徒の理解を深め、保護者や関係機関との連携のもと、組織的な対応を行う。 オープンスクールや参観日、行事などの機会を活用し、広く学校の教育活動を公開する。 地域の行事やパトロールなどに積極的に参加するとともに、教職員と生徒、地域ボランティア等との連携により、ボランティア活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針等を教職員が熟知し、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務にあたる。 学校からの配布物が確実に各家庭に届き、情報が十分に伝わるように、終礼で必ず配布物の確認を行う。また、クリアファイルやクリップなどを活用し、保護者にその日のうちに必ず渡すことの習慣化を図る。 個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようHPの更新を行う。 学期に1回オープンスクールを実施し、授業参観とあわせて保護者や地域の方々により参加しやすい講演会や説明会などを企画する。 PTAやコミュニティスクールを中心に、学校支援ボランティアへの参加を促し、保護者や地域の方々との連携をすすめる。 生徒会を中心として、地域ボランティアの活性化を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の案内を1ヶ月前には配布するとともに、ミマモルメのメール配信の加入率は3年生がほぼ100%加入し、1・2年生も90%以上加入した。 オープンスクール、研修会等、昨年よりも保護者の参加が増加した。 地域のまつりやもちつき大会、公園清掃、校区内の幼稚園や小学校の行事への協力など、部活動や生徒会を中心にボランティア活動に参加し、教職員とともに生徒が地域の一員として活躍する場を設けることができた。 地域の行事に参加している項目が、54%から63%に向上した。 地域の方からも教師や生徒のボランティア活動の貢献を評価してもらえた。 ボランティア活動の活性化に伴い、教職員の負担が増えてきた。 保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着し、その内容もより充実してきた。 学校運営協議会の内容を教職員に周知し、改善に生かすことができた。 学校だよりや学年通信等、月1回以上の定期的な発行・配布、写真や生徒・保護者の感想等を多く掲載するなど工夫できた。 CSディレクターの配置により、毎月2回以上のHPの更新及び内容の充実を十分に図ることができた。 生徒会役員や部活動生徒の参加意識や充実感にともない、一般生徒の参加の機会も増えたことから生徒は9ポイント・保護者は5ポイント評価が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学年だよりで学校のことがよくわかるという生徒の割合が昨年79.8%だったのが、今年度は87%の伸びた。来年度は90%以上をめざしたい。 学校の教育方針等を教職員が熟知し、引き続きあらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明していく。 これまでの地域へのボランティア活動を引き続き推進する。 参加型地域学習などの企画を、生徒会中心に行う。（笹フェス継続） 教職員の負担軽減のため、地域への依頼事項を考慮していく。 個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようタイムリーにHPの更新を行う。 HPの更新を毎月2回以上は行っていく。 学校運営協議会委員やCSディレクターを通じて学校の情報を、地域や保護者へHPやコミュニティスクールだよりなどを通じて積極的に発信していく。 ボランティアマスターに認定する生徒を30人まで増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた信頼される学校づくり（地域との連携）では、保護者の学校ボランティアが充実し始めている。今後もこの活動を維持してほしい。 教育環境の整備では、校舎全体が改修により明るくなったため清潔感がただよっている。生徒や保護者により影響をもたらしているため、劣化に気づいたらすぐに改善に当たってほしい。
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動を活性化し、教育環境を整える。 安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会を中心として清掃用具の整備を行う。 全員清掃へ向けての点検活動を充実させる。 安全点検を実施するための時間を確保する。 「無言清掃」に取り組む。 大規模改修により、学校環境が改善され、使いやすい施設になった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、2学期末に清掃用具の点検を行い、用具の修理を行った。しかし、定期的な確認ができていなかった。 安全点検に係りからの声かけ遅くなってしまうことがあったが、普段の清掃の時に異常がないか確認できた。 大規模改修により校舎が綺麗になった影響もあり、生徒達が綺麗に施設や用具を使用する意識が高まり、アンケートでも生徒・保護者と90%以上が良い評価をつけた。 無言清掃が定着し、静かに行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会を中心として、委員会の後に掃除用具の点検活動などに取り組む。 月1回の安全点検を呼びかけ、教員の点検漏れがないかを分かりやすくするために、紙でのチェックからデータ入力へと変更する。 無言清掃が新入生にも定着し、文化となるように美化委員会を中心に取り組む。 	

学校関係者評価総括

・昨年に比べて、学校全体が落ち着きを取り戻してきていることが学校公開や参観授業などから伝わって来ています。今後、さらに「笹トレ」などの充実を図りながら、上記の評価表の細部を点検しつつ頑張る生徒への教育を続けてほしい。

・笹原中学校全体の「学力」の著しい向上が見られ、それが生徒の自信回復につながるとともに、教員側の達成感にもつながっているようです。生徒のために常にアイデアを出しながら毎日の教育活動に当たってほしい。このことにより、保護者や地域住民からの期待や信頼感につながっていきます。また、生徒へのアンケート結果では、様々な観点でかなり良好であります。これは、笹原中学校の教職員の日頃からの努力のたまものと思います。ただ、教職員アンケートの結果が、項目によって低いものがあるので、具体的な要因を探り、改善に向けての協議をしてほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

・教育課程では、「笹原中学校で修得させたい能力や技能はどのようなものか」を明確にする必要があります。例えば、「笹トレ」によって「学年を超えた人間関係作り」や「自身の能力開発などにつなげていく」などのようです。地域との関係は今の良好な関係を継続してください。

・危機管理では、管理責任者だけでなく教職員全体が常に意識しておく必要があります。このことは教職員の人材育成にもつながり、教職員の能力や質の向上につながっていきます。

・生徒指導では、まず「聴く」事を重視してほしい。それぞれの生徒の背後にあるものを理解するためには「傾聴」が重要になります。その上でしっかりとした指導（生徒として今は何をなすべきなのか）が必要です。

・進路指導では、「一高校へ」が中心となりがちですが、まず生徒本人の特性理解が重要です。「どんなことに興味を持っているか」、「どんなことを自信を持ってやれているのか」など日頃からの観察や本人とのちょっとした面談などからその情報は得られるものです。

